

はじめに

- <策定の背景> 現計画が令和7年度で計画期間の終期。近年の状況の変化を踏まえ、次期計画を策定する。
- <性格> 滋賀県基本構想を上位計画とし、本県農業・水産業の基本的な施策の展開方向を示す。県民と基本理念を共有する。SDGsの達成に貢献し、世界農業遺産に認定された「琵琶湖システム」を次世代に継承する。
- <計画期間> 10年後(2035年)の目指す姿を実現するために実践する令和8年度(2026年度)から令和12年度(2030年度)までの5年間。



第1章 基本理念

(現状・課題と取組の方向性)

- 人** 国内での生産年齢人口の減少に伴い、各産業分野における人材の確保に向けた賃金が上昇しており、今後、農業・水産業における担い手の確保・育成がより重要である。
- 経済** 世界の食料需要の増加に伴い、生産資材や食料原材料の価格上昇や生産資材・食料原材料の輸入が難しくなる一方で、国内での調理食品の需要増やオーガニック・自然派食品の市場の拡大が見込まれるなど、より多様化するニーズに対応した取組が重要である。
- 社会** 国内での人口減少・少子高齢化は、農山漁村とりわけ中山間地域で顕在化してきている一方で、コロナ禍の影響により始まったテレワークは浸透し、さらに地方移住への関心も高いことを踏まえた取組が重要である。
- 環境** 国内では、これまでに経験したことのない気温上昇、ゲリラ豪雨等が発生し、農業・水産業への影響が生じていることから、温暖化に対応しうる適応策、温室効果ガス発生を削減しうる緩和策の取組をさらに進めることが重要である。

つながり、つづく、しがの農業・水産業 (本日の審議会にて決定)

第2章 目指す2035年の姿

- 人** 農業・水産業の担い手が確保・育成されるとともに、生産者と消費者のつながりが深まり、誰もが農業・水産業との関わりを感じている。
- 経済** 滋賀の強みを活かして、未来を切り拓くことができる、力強い農業・水産業が営まれている。
- 社会** 多様な人が関わる活動によって人と自然が共存する豊かな農山漁村に賑わいが生まれ、その価値が高まるとともに、誰もがその恩恵を認識している。
- 環境** 気候変動や地球温暖化、自然災害等のリスクに対応するとともに、琵琶湖を中心とする環境と調和した「琵琶湖システム」が、次世代に引き継がれるための取組として発展し、誰もがその取組を誇りに感じている。

第3章 政策の方向性





目指す姿の視点		政策の方向性	具体的施策 (KPI)
目指す姿	共通視点 <b>人</b>	(1) 担い手を確保・育成する (2) 農業・農村を支える多様な人材を確保・育成する (3) 農業・水産業の魅力発信・販路拡大に取り組む	
	視点 <b>経済</b>	(1) 需要の変化に対応できる生産力を確保する (2) 地域の魅力や強みを生かした生産を進める (3) 経営体質の強化を進める (4) 国内資源を活用する農業・水産業へ転換する (5) 生産コスト低減に取り組む (6) 流通・小売業との連携強化による産地競争力の向上に取り組む	
	視点 <b>社会</b>	(1) 農業・漁業を身近に感じ、滋賀の農山漁村に関わる人を増やす (2) 他業種との連携強化で農山漁村の暮らしを維持・活性化させる (3) 地域全体で農業・水産業の生産基盤を守る (4) 地域全体で多様な人材を確保・育成する	
	視点 <b>環境</b>	(1) 琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた農業・水産業を展開する (2) 地球温暖化対応策のさらなる推進に取り組む (3) 外部環境の変化から生じる自然災害などのリスクに対応する	

第4章 政策の推進方法

- ・県民に対する情報提供 ・分野別計画等による施策の推進
- ・具体的な手引書等による施策の推進 ・試験研究と普及活動による施策の推進 他

参考資料

- ・2035年における滋賀県農業・水産業に影響を及ぼす社会情勢の変化(データ)
- ・SDGsのゴール、ターゲットと関連する施策との関連性 他

目指す姿の 視点	目指す姿	ご意見等
 人	<p>農業・水産業の担い手が確保・育成されるとともに、生産者と消費者のつながりが深まり、誰もが農業・水産業との関わりを感じている。</p>	
 経済	<p>滋賀の強みを活かして、未来を切り拓くことができる、力強い農業・水産業が営まれている。</p>	
 社会	<p>多様な人が関わる活動によって人と自然が共存する豊かな農山漁村に賑わいが生まれ、その価値が高まるとともに、誰もがその恩恵を認識している。</p>	
 環境	<p>気候変動や地球温暖化、自然災害等のリスクに対応するとともに、琵琶湖を中心とする環境と調和した「琵琶湖システム」が、次世代に引き継がれるための取組として発展し、誰もがその取組を誇りに感じている。</p>	

手段  
「どうやる」

目指す姿の 視点	政策の方向性	ご意見等
<p>人</p>	<p>(1) 担い手を確保・育成する (2) 農業・農村を支える多様な人材を確保・育成する (3) 農業・水産業の魅力発信・販路拡大に取り組む</p>	
<p>経済</p>	<p>(1) 需要の変化に対応できる生産力を確保する (2) 地域の魅力や強みを生かした生産を進める (3) 経営体質の強化を進める (4) 国内資源を活用する農業・水産業へ転換する (5) 生産コスト低減に取り組む (6) 流通・小売業との連携強化による産地競争力の向上に取り組む</p>	
<p>社会</p>	<p>(1) 農業・漁業を身近に感じ、滋賀の農山漁村に関わる人を増やす (2) 他業種との連携強化で農山漁村の暮らしを維持・活性化させる (3) 地域全体で農業・水産業の生産基盤を守る (4) 地域全体で多様な人材を確保・育成する</p>	
<p>環境</p>	<p>(1) 琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた農業・水産業を展開する (2) 地球温暖化対応策のさらなる推進に取り組む (3) 外部環境の変化から生じる自然災害などのリスクに対応する</p>	